NEC Express5800シリーズ
Express5800/R120b-1

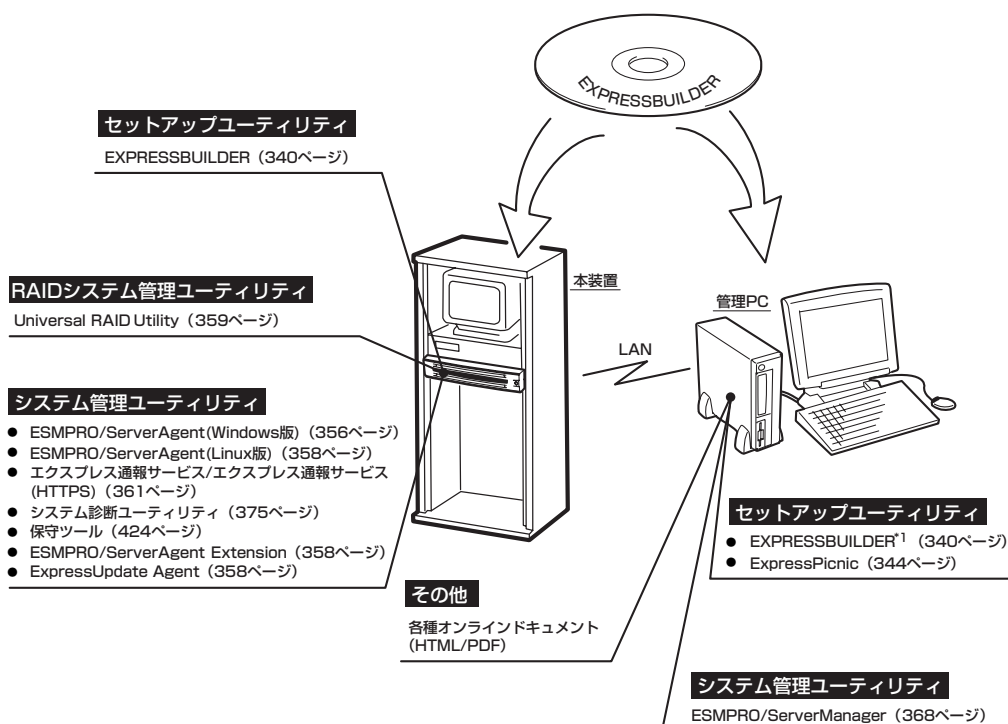
3

ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のDVDについて

添付の「EXPRESSBUILDER®」DVDには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。

「EXPRESSBUILDER」DVDは、本装置の設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。また、装置障害時の保守作業においても使用されますので、なくさないように大切に保存しておいてください。

*1　コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。

オプションのRAIDコントローラ（N8103-129/130/134/135）を利用してRAIDシステムの設定をするRAIDユーティリティはボード上のチップに搭載されています。これらのユーティリティの操作方法については、オプションのRAIDコントローラに添付の説明書を参照してください。

DVD媒体読み込み機能のない管理PCを使用したいとき

EXPRESSBUILDERはDVDにて提供しているため、DVD媒体読み込み機能のないコンピュータでは各種ソフトウェアのインストールをすることができません。DVD媒体読み込み機能のないクライアントマシンへソフトウェアをインストールしたい場合は、次のような手順にて、いったんCD-R等へコピーしてから使用してください。

本手順は、クライアントへソフトウェアをインストールする目的に限り、CD 1枚分のみコピーすることができます。

1. 本装置など、DVD媒体が読み込める装置へ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
2. オートランメニューが起動した場合は終了させる。
3. エクスプローラから、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納された以下のファイル・フォルダをハードディスクドライブへコピーする。

   ```
   ¥(ルートフォルダ) : version.xmlをコピー
   ¦
   +--- ¥017
          ¦
          +---- ¥ar_menu 以下すべて
          ¦
          +---- ¥doc以下すべて
          ¦
          +---- ¥win以下すべて
   ```

4. 手順3にてコピーしたファイル・フォルダをそのままのフォルダ構造にてCD-Rへコピーする。

   コピーするときは、ルートフォルダを一致させてください。

5. CD-Rへのコピーが完了したら、手順3にてコピーしたハードディスクドライブ上のファイル・フォルダはすべて削除する。
6. 手順4で作成したCD-Rをクライアントマシンの光ディスクドライブへセットする。
7. エクスプローラから、CD内の以下のファイルを実行する。

   ¥017¥ar_menu¥autorun_menu.exe　（32ビット版OSの場合）
   ¥017¥ar_menu¥autorun_menu_x64.exe　（64ビット版OSの場合）

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、OSのインストール、装置のメンテナンスなどをするためのソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはRAIDシステムの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。

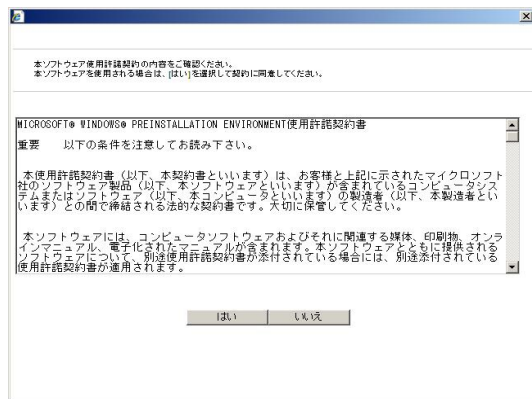
各メニューの起動について

「EXPRESSBUILDER」DVDを本装置の光ディスクドライブにセットして起動すると、以下のようなメニューが起動します。

```
Boot selection

Os installation***default***...............①
Tool menu(Normal mode)....................②
Tool menu(Redirection mode)...............③
```

① Os installation

本項目を選択すると、Windows PEのソフトウェア使用許諾画面が表示されます。

[はい]をクリックすると、EXPRESSBUILDERトップメニューが表示されます。

NEC EXPRESSBUILDER

Step トップメニュー 1

メニューを選択して、「次へ」ボタンを押してください。
・RAID構築やOSをインストールする場合は、「シームレスセットアップを実行する」を選択してください。
・作業を終了する場合は、「EXPRESSBUILDERを終了する」を選択してください。

- シームレスセットアップを実行する
- Windows用 OEM-Diskを作成する
- Linux用 ドライバディスクを作成する
- Linux Recoveryパーティションを作成する(Linuxサービスセット用)
- RAIDのコンフィグレーション情報をセーブ/ロードする
- EXPRESSBUILDERにドライバをロードする
- EXPRESSBUILDERを終了する

次へ

Version 5.10-016.01(017)

本ツールはConfiguration Toolであり、Windows PEを使用しています。72時間継続して使用すると自動的に再起動されますのでご注意ください。

このメニューから、OSインストールのための「シームレスセットアップ」（導入編参照）や、以下のような機能を起動することができます。

a)　Windows用OEM-Diskを作成する
Windowsのマニュアルセットアップで必要となるOEM-Diskを作成します（導入編ーマニュアルセットアップ参照）。

b)　Linux用ドライバディスクを作成する
Linuxのインストール時に必要となるドライバディスクを作成します。Linux用ドライバディスクは、シームレスセットアップの途中で作成することもできます。

Red Hat Enterprise Linux 6 Serverをインストールする場合は、ドライバディスクを作成する必要はありません。

c)　Linux Recoveryパーティションを作成する(Linuxサービスセット用)
Linux Recoveryパーティションには、インストールディスクのISOフォーマットイメージファイル等、Linuxのシームレスセットアップで必要となるモジュールが格納されます。Linux Recoveryパーティションは、BTO(工場組み込み出荷)時のハードディスクドライブ内に予め作成(サイズは約5GB)されていますが、RAID再構築などでパーティションを新規作成する場合は、Linux Recoveryパーティションの作成が必要になります。なお、Linux Recoveryパーティションはシームレスセットアップの途中で作成することもできます。

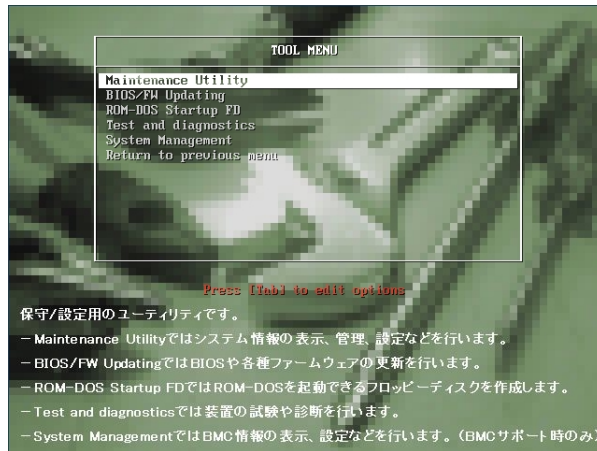
ハードディスクドライブの接続やRAIDシステム構成を確認し、正しく認識されている状態でLinux Recoveryパーティションを作成してください。

Red Hat Enterprise Linux 6 Serverは、シームレスセットアップに対応していません。そのため、Red Hat Enterprise Linux 6 Server用のLinux Recoveryパーティションは設定できません。

d)　RAIDのコンフィグレーション情報をセーブ／ロードする
RAIDコントローラ上のRAIDコンフィグレーション情報を保存したり、復元したりすることができます。

e)　EXPRESSBUILDERにドライバをロードする
通常は使用しません。オプション製品を追加した場合に使うときがあります（導入編ー応用セットアップ参照）。

② Tool menu(Normal mode)

本項目を選択すると、表示言語の選択の後、ツールメニューが起動します。

このメニューから、以下のような保守用の機能を起動することができます。各機能の詳細については、運用・保守編の保守ツールの章を参照してください。

a) Maintenance Utility
オフライン保守ユーティリティを起動します。

b) BIOS/FW Updating
システムBIOSをアップデートします。

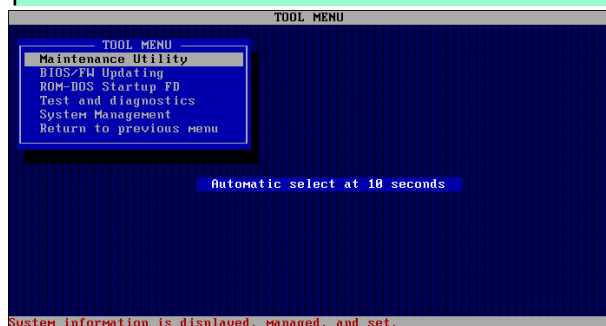
c) ROM-DOS Startup FD
ROM-DOS起動用サポートディスクを作成します。

d) Test and diagnostics
システム診断を起動します。

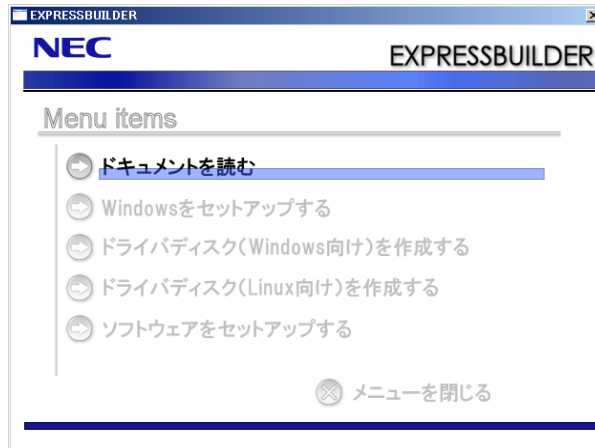
e) System Management
システムマネージメント機能を起動します。

③ Tool menu(Redirection mode)

本項目は、BIOSコンソールリダイレクション機能を使用して、コンソールレスにて操作する場合にのみ選択してください。

リモートKVM機能を使用しているときは、本項目ではなく②の項目を選択してください。

このメニューから起動できる機能は、②のメニューから起動できるものと同等です。

オートランで起動するメニュー

Windows2000+IE6.0、WindowsXP、VistaまたはWindows Server 2003、Windows Server 2008（Server Core環境を除く）が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」DVDをセットすると、オートラン機能により自動的にメニューが起動します。

セットしたタイミングによっては、自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、いったんドライブからEXPRESSBUILDERをイジェクトし、再度セットしてください。また、メニューを再表示させたいときは、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、EXPRESSBUILDERをセットしたドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

メニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Readerがインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステム社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしておいてください。

メニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。

DVDを光ディスクドライブから取り出す前に、メニューおよびメニューから起動したオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「パラメータファイル」を作成するツールです。
EXPRESSBUILDER とExpressPicnic で作成したパラメータファイルを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOS のインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「パラメータファイル」を作成して、EXPRESSBUILDER からセットアップすることをお勧めします。
フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USB フロッピーディスクドライブをご用意ください。

Windows Server 2008 R2,Windows Server 2008, Windows Server 2003用の「パラメータファイル」が作成できます。

「パラメータファイル」がなくてもシームレスセットアップは可能です。また、「パラメータファイルの入ったFD」は、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップの途中で作成または修正することもできます。

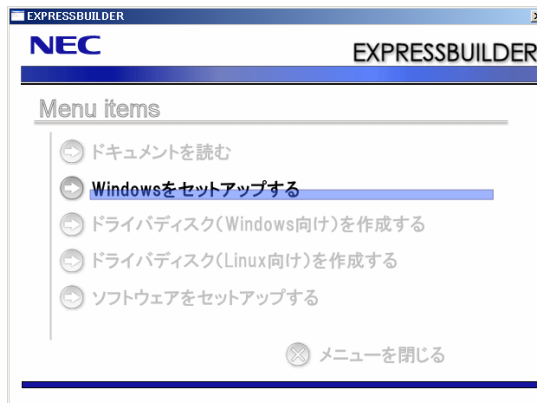
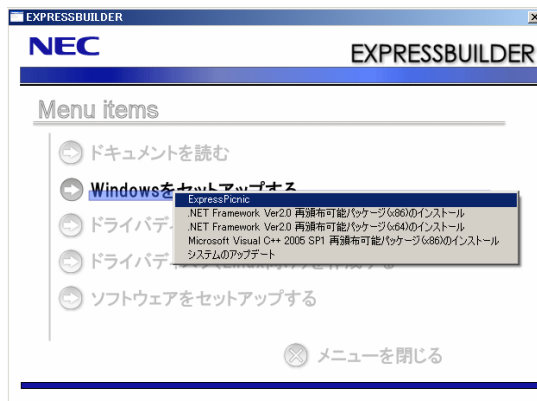
Flash FDDに保存したパラメータを使ってのセットアップはサポートしていません。

パラメータファイルの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「パラメータファイル」を作成します。以下の手順に従ってください。

パラメータファイルの作成中は、絶対に[EXPRESSBUILDER]DVDをドライブから取り出さないでください。

- ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。
- ExpressPicnicは次のOS上で動作します。
  - Windows Server 2008 R2（フルインストール）
    （ユーザアカウント制御（UAC）は無効にしてください）
  - Windows Server 2008（フルインストール）
    （ユーザアカウント制御（UAC）は無効にしてください）
  - Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003
  - Windows 7
    （ユーザアカウント制御（UAC）は無効にしてください）
  - Windows Vista
    （ユーザアカウント制御（UAC）は無効にしてください）
  - Windows XP x64 Edition, Windows XP

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。
3. 画面上で右クリックするか、[Windowsをセットアップする]を左クリックする。

4. [ExpressPicnic]をクリックする。

ExpressPicnic が起動します。

5. パラメータのロード画面が表示されたら、[パラメータをロードしない] のチェックボックスがオンになっていることを確認し[次へ]をクリックする。

6. インストールするOSを選択する。

[Windows(32bitエディション)をインストールする]または[Windows(64bitエディション)をインストールする]を選択し、[次へ]をクリックしてください。

7. RAID の設定をする。

[RAID の設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックしてください。

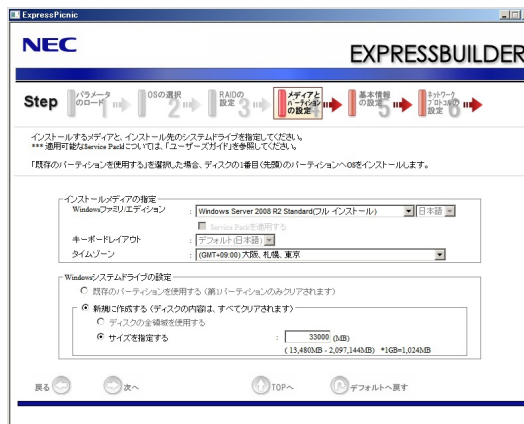
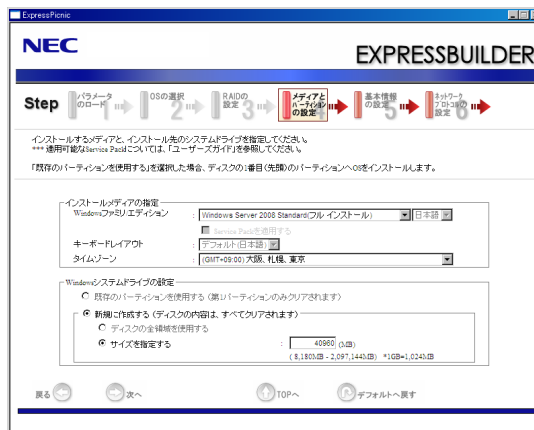
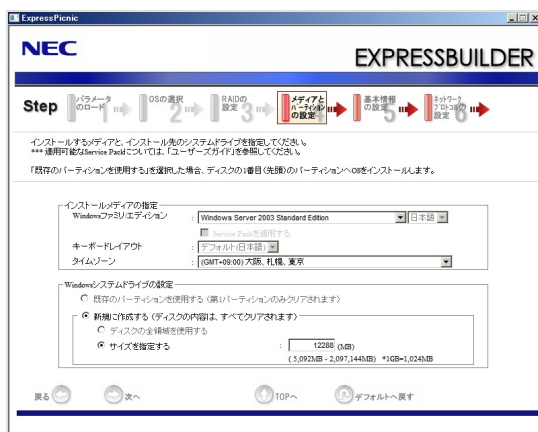
ExpressPicnicでは、［接続されている全物理デバイスの台数］はRAIDコントローラがサポートしている上限値になっています。「論理ドライブを作成する物理デバイスの台数」と「ホットスペアに指定される物理デバイスの台数」の合計が、「対象装置に接続されている全物理デバイスの台数」を超えないように注意してください。

論理ドライブの作成には、同型番の物理デバイスしか使用できません。

8. メディアとパーティションの設定をする。

［メディアとパーティションの設定］画面が表示されます。

「Windowsファミリ/エディション」で、インストールするエディションおよび、インストールの種類(フルインストール/ServerCoreインストール)を選択後、設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

[Windows Server 2008 R2 の場合]

[Windows Server 2008 の場合]

[Windows Server 2003 の場合]

- Windows Server 2003 R2をご使用の場合は、シームレスセットアップ完了後、Windows Server 2003 R2 DISC 2を適用してから「システムのアップデート」にてサービスパックを適用してください。
- パーティションサイズについて
  - OS をインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください（59ページ、89ページ参照）。
  - 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
  - RAID構成で2,097,144MB以上の論理ドライブは作成できません。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規に作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- Windows Server 2008 R2をご使用の場合、「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、ブートパーティション(存在する場合)、Windowsパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

ブートパーティション	Windowsパーティション	ユーザデータパーティション
削除	削除	保持

- Windows Server 2008 またはWindows Server 2003をご使用の場合、「Windowsシステムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません。「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択しないでください。

9. 基本情報の設定をする。

［基本情報の設定］画面が表示されます。ユーザ情報を入力して［次へ］をクリックしてください。

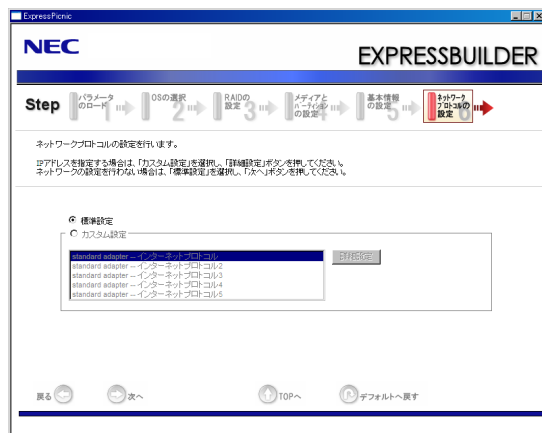
[Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008の場合]

[Windows Server 2003 の場合]

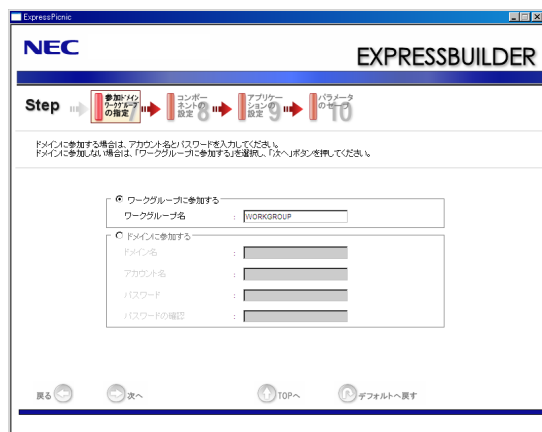
- Windows Server 2003の場合、コンピュータ名および使用者名の入力は必須です。
- Windows Server 2008 R2 / Windows Server 2008の場合、コンピュータ名および、次の条件を満たす Administratorパスワードの入力は必須です。
  - 6文字以上(半角)
  - 数字/英大文字/英小文字/記号のいずれか3つ以上を含む

- パラメータファイルをロードした場合や、Step6以降の画面からStep5に画面を戻した場合、「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「●●●●●●」が表示されます。
- Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008の場合、使用者名は「Administrator」固定です。

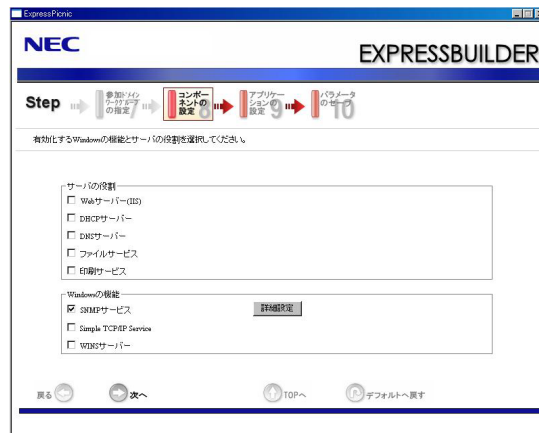
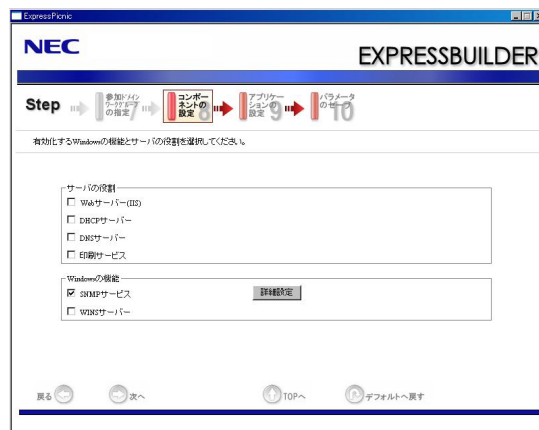
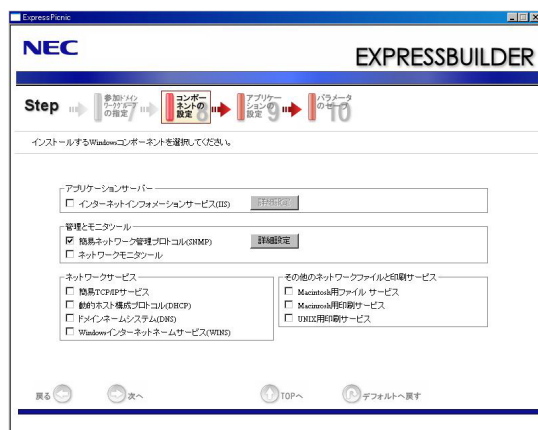
10. ネットワークプロトコルの設定をする。

［ネットワークプロトコルの設定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください。

カスタム設定での登録順は、LANポートの番号と一致しない場合があります。

11. 参加ドメイン・ワークグループを指定する。

［参加ドメイン・ワークグループの指定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください。

12. コンポーネントの設定をする。

［コンポーネントの設定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください。

［Windows Server 2008 R2(フルインストール)/
Windows Server 2008(フルインストール)の場合］

［Windows Server 2008 R2(ServerCoreインストール)/
Windows Server 2008(ServerCoreインストール)の場合］

[Windows Server 2003の場合]

13. アプリケーションの設定をする。

［アプリケーションの設定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して［次へ］をクリックしてください。

[Windows Server 2008 R2（フルインストール）/
Windows Server 2008（フルインストール）の場合]

[Windows Server 2008 R2（Server Coreインストール）/
Windows Server 2008（Server Coreインストール）の場合]

[Windows Server 2003の場合]

- 「追加アプリケーションのインストール」について

  「追加アプリケーションのインストール」とは、シームレスセットアップの最後にあらかじめ指定された任意のアプリケーションを自動でインストールする機能です。
  詳細については、「http://www.nec.co.jp/expicnic/」の[FAQ] - シリーズを選択 - 対応するバージョンの[重要]を選択 -[追加アプリケーションのインストール]を参照してください。

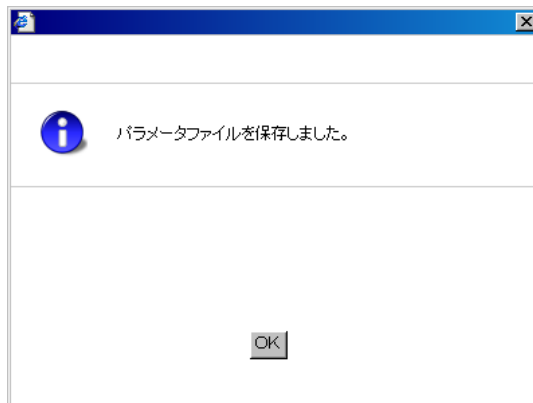
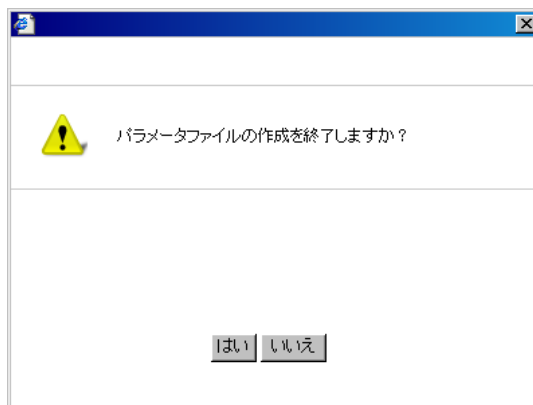
- 情報提供ツール「NEC からのお知らせ」について
  - インストールメディアの設定において、以下のエディションを選択した場合にのみ、表示されます。
    - Windows Server 2008 R2 Standard （フルインストール）（日本語）
    - Windows Server 2008 Standard（フルインストール）（日本語）
    - Windows Server 2003 R2 Standard Edition (日本語)
    - Windows Server 2003 Standard Edition (日本語)

    これ以外のファミリやエディションでは、インストールされません。
  - 情報提供ツール「NEC からのお知らせ」をインストールしない場合、［選択されたアプリケーション］の「NEC からのお知らせ」を選択し［<<削除］をクリックし、［追加可能なアプリケーション］に移動していることを確認してください。シームレスセットアップ後、情報提供ツール「NEC からのお知らせ」をインストールする場合は「システムのアップデート」でインストールしてください。
  - 情報提供ツール「NEC からのお知らせ」についての詳細は、本書「情報提供ツール「NECからのお知らせ」(364ページ)」をご覧ください。

14. パラメータをセーブする。

［パラメータのセーブ］画面が表示されます。
「パラメータをセーブする」を選択し、フォーマット済みフロッピーディスクをセットした後、パラメータファイルのパスをボックスへ入力し、［次へ］をクリックします。

パラメータファイルのパス、およびファイル名に日本語は使用しないでください。

15. フロッピーディスクに保存する。

「パラメータファイルの入ったFD 」が作成できました。
[はい]をクリックし、パラメータファイルの作成を終了してください。

- 既存の情報ファイル（パラメータファイル）を修正する場合は、[パラメータのロード]画面で、パラメータをロードするをクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。
- 途中で終了する場合は、画面右上の［ ×］をクリックしてください。

本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）は本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。
EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- **ネットワークサービスの設定**

  プロトコルはTCP/IP を使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- **SNMPサービスの設定**

  コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」DVDを使用します。本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアをセットアップする］－［ESMPRO］－［ESMPRO/ServerAgent］の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

Administrator権限を持つユーザでログオンしてください。

ネットワーク上の光ディスクドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. **本装置を再起動する。**
2. **イベントログを開く。**
3. **イベントログにESMPRO/ServerAgent（Windows版）の監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。**

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

ESMPRO/ServerAgent（Linux版）

ESMPRO/ServerAgent（Linux版）は本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。個別にインストールする場合には、本体装置に添付されている「インストレーションガイド」を参照し、ESMPRO/ServerAgentをインストールしてください。

ESMPRO/ServerAgent Extension

ESMPRO/ServerAgent Extensionは本装置にインストールするリモート管理用ソフトウェアです。
ESMPRO/ServerAgent Extensionの機能やインストール方法についての詳細はEXPRESSBUILDER内の「インストレーションマニュアル」を参照してください。

ExpressUpdate Agent

装置のファームウェアやソフトウェアなどのバージョン管理や更新を行うことができます。
ESMPRO/ServerManagerによって、自動的にダウロードした装置の更新パッケージを、システムを停止せずに簡単に適用できます。
ExpressUpdate Agentの機能やインストール方法についての詳細はEXPRESSBUILDER内の「インストレーションマニュアル」を参照してください。

ExpressUpdateに未対応のファームウェアまたはソフトウェアの更新パッケージが提供されることがあります。
これらの更新パッケージの適用に関しては以下のページに掲載しています。
NEC コーポレートサイト(http://www.nec.co.jp/)
[サポート・ダウンロード]－[PCサーバ]

Universal RAID Utility

Universal RAID Utilityは、以下のRAIDコントローラの管理、監視を行うアプリケーションです。

- N8103-129 RAIDコントローラ(256MB, RAID 0/1)
- N8103-130 RAIDコントローラ(256MB, RAID 0/1/5/6)
- N8103-134 RAIDコントローラ(512MB, RAID 0/1/5/6)
- N8103-135 RAIDコントローラ(512MB, RAID 0/1/5/6)
- オンボードのRAIDコントローラ(LSI Embedded Mega RAID™)

Universal RAID Utilityのインストールおよび操作方法、機能については、添付のEXPRESSBUILDER に収録している「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

本体装置のモデルにより、あらかじめ Universal RAID Utility がインストールされている場合があります。

シームレスセットアップを使用したセットアップ

Universal RAID Utilityは、「EXPRESSBUILDER」DVDに収録している「シームレスセットアップ」を使用してセットアップできます。シームレスセットアップのセットアップするアプリケーションの選択で、[Universal RAID Utility] を選択してください。

Universal RAID Utilityのセットアッププログラムを使用したセットアップ

- **Windowsの場合**

  [オートランメニュー] でUniversal RAID Utilityのセットアッププログラムを起動できます。
  [オートランメニュー] で [ソフトウェアをセットアップする]、[Universal RAID Utility] をクリックします。
  なお、Windowsの場合、下記のランタイムコンポーネントが必要です。

  - Microsoft .NET Framework 2.0 以上
  - Microsoft .NET Framework 2.0 日本語Language Pack 以上
  - Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリのランタイムコンポーネント

  この3つのソフトウェアは、[オートランメニュー]でインストールできます。

[Microsoft .NET Framework 2.0]と[Microsoft .NET Framework2.0 日本語 Language Pack] をインストールするには、[オートランメニュー] で [Windowsをセットアップする]、[.NET Framework Ver2.0再配布可能パッケージ(x86)のインストール] (x64の場合、[.NET Framework Ver2.0 再配布可能パッケージ(x64)のインストール]をクリックします。

[Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリのランタイムコンポーネント] をインストールするには、[オートランメニュー] で [Windowsをセットアップする]、[Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再配布可能パッケージ(x86)のインストール] (CPUアーキテクチャに関わらず、(x86)を使用します)をクリックします。

- Microsoft .NET Framwork
  RAIDビューア、ログビューアを使用するには、Microsoft .NET Framework 2.0以上が必要です。
  Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2はオペレーティングシステムに.NET Framework 2.0以上を含んでいます。これらのオペレーティングシステムを使用する場合、.NET Frameworkをインストールする必要はありません。
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1ライブラリのランタイムコンポーネント
  RAIDビューアを使用するには、Microsoft Visual C++ 2005 SP1ライブラリのランタイムコンポーネントが必要です。
  Windows Server 2008 R2は、オペレーティングシステムにMicrosoft Visual C++ 2005 SP1ライブラリのランタイムコンポーネントを含んでいます。これらのオペレーティングシステムを使用する場合、Microsoft Visual C++ SP1ライブラリのランタイムコンポーネントをインストールする必要はありません。

- **Linuxの場合**

  Universal RAID Utilityのインストールイメージが存在するディレクトリで、セットアッププログラムを直接実行します。インストールイメージは、EXPRESSBUILDER の以下のディレクトリに収録しています。

  /*BBB*/lnx/pp/uraidutl

  BBBの部分は、EXPRESSBUILDER 媒体番号

  5.AA-BBB.CC

  のBBBと同じ値です。

イージーコンフィグレーション機能

Universal RAID Utilityの「イージーコンフィグレーション」機能は、LSI Embedded MegaRAIDでは使用できません。

RAIDレベル 6 の論理ドライブの作成

Universal RAID Utilityでは、RAIDレベル 6 の論理ドライブを作成するには、4台以上の物理デバイスが必要です。3台の物理デバイスでRAIDレベル 6 の論理ドライブを作成するには、WebBIOSを使用してください。

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)に登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)を有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)の契約**

  本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)のみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)はご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **開局にあたって**

  エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)を開局する際には、ご契約毎のご契約情報を記録した「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) 開局キーファイル」を、通報対象の装置に適用する必要があります。
  「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) 開局キーファイル」は、弊社での開局準備ができ次第、エクスプレス受付センターから提供いたします。ファイルの提供とその適用方法には、以下の2通りの方法があります。

  (1) ネットワーク経由でダウンロード

  エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) をNECサポートパック登録ホームページ、もしくはお客様登録のサイトからお申し込みの場合、お申し込みの手続きを実施いただき、弊社での開局準備完了後、「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)開局キーファイル」をダウンロードできます。ダウンロード後、インストレーションガイドに従い、「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)開局キーファイル」を設定頂くようお願いします。

  (2) 通報サービスの通報開局 CD

  エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)を製品同梱の申込用紙もしくは契約書で申し込みの場合、お申し込み内容を確認し、弊社での開局準備完了後、エクスプレス受付センターより、「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) 開局キーファイル」を格納した「通報開局 CD」を送付いたします。お申し込み手続き後しばらくお待ちください。
  「通報開局 CD」到着後、インストレーションガイドに従い、設定してください。

装置情報収集ユーティリティ

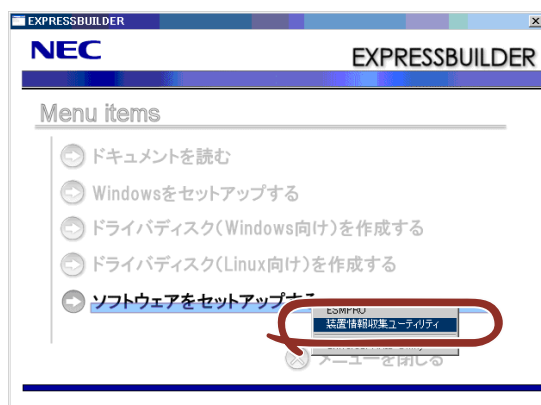
装置情報収集ユーティリティは本装置にインストールするソフトウェアです。保守時や障害時などにサーバの各種情報を採取することができます。「EXPRESSBUILDER」DVDからインストールすることができます。

インストール

ここでは、個別にインストールする場合の手順を説明します。

1. OSが起動した後、「EXPRESSBUILDER」DVD を光ディスクドライブに挿入する。
2. Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアをセットアップする］－［装置情報収集ユーティリティ］の順にクリックする。

   本ユーティリティのインストールを開始します。

   以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。
   （デフォルトでは、システムドライブ:¥ezclctフォルダにインストールされます。）

- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- インストール先ドライブの空き容量が「2.5GB」以上必要です。

使用方法

本ユーティリティのインストールフォルダ配下の¥stdclct¥collect.exeを実行してください。
stdclctフォルダ配下にlogフォルダが作成され、本装置の各種情報が圧縮ファイル(zip形式)で格納されます。

アンインストール

- **Server Core以外の場合**

  コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」－「Product Info Collection Utility (Vx.x.x)」を選んでください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってアンインストールしてください。

- **Server Coreの場合**

  コマンドプロンプトにて以下のコマンドを実行してください。
  Wmic product where name="Product Info Collection Utility" call

情報提供ツール「NECからのお知らせ」

情報提供ツール「NECからのお知らせ」は、購入された装置をご利用いただくうえで役立つ情報を提供するツールです。

本ツールは、以下のエディションに対してのみインストールされます。

- Windows Server 2008 R2 Standard（フルインストール）(日本語)
- Windows Server 2008 Standard（フルインストール）(日本語)
- Windows Server 2003 R2 Standard Edition (日本語)
- Windows Server 2003 Standard Edition (日本語)

これ以外のファミリやエディションでは、インストールされません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時に情報提供ツール「NECからのお知らせ」があらかじめインストールされている場合があります。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

情報提供ツール「NECからのお知らせ」は、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

手動インストール(新規インストール)

手動で情報提供ツール「NECからのお知らせ」をインストールする場合は、「EXPRESSBUILDER」DVD内に格納されている対応する各OSの「インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「システムのアップデート」を適用してください。

情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアンインストール手順

情報提供ツール「NECからのお知らせ」をアンインストールする場合は、次の手順にしたがってください。

本ツールをアンインストールする場合は、本ツールをインストールしたアカウントで行なってください。本ツールをインストールしたアカウントはお客様の環境により以下のとおりとなります。

- **「BTO（工場組み込み出荷）」で「カスタムインストール」を指定して購入された環境、または再セットアップ時にEXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」を使用した環境の場合**
  - **Administrator アカウント**
- **再セットアップ時にインストールサプリメントガイドを参照し「マニュアルセットアップ」を使用した環境の場合**
  - **「システムのアップデート」を実行した管理者権限を持つアカウント**

＜Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008の場合＞

1. [プログラムと機能]画面を表示する。

   <標準のスタートメニューの手順>
   スタートメニューから[コントロールパネル]をポイントし、[プログラムと機能]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>
   スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]から[プログラムと機能]をクリックする。

2. [プログラムのアンインストールまたは変更]一覧から情報提供ツール[NECからのお知らせ]をダブルクリックする。

   アンインストールが開始されます。

3. [プログラムと機能] 画面の [プログラムのアンインストールまたは変更] 一覧から、情報提供ツール「NECからのお知らせ」が削除されていることを確認後、システムを再起動する。

   続いて、[お気に入り] から [NECからのお知らせ] を削除します。

4. [Internet Explorer] 上にて＜Alt＞キーを押してツールバーを表示し、[お気に入り] から [お気に入りの整理] を選択する。

   「お気に入りの整理」ウィンドウが開きます。

5. 項目から「NEC」フォルダを選択する。

   NECフォルダに登録されているWebサイト一覧が表示されます。

6. [NECからのお知らせ]を選択し、[削除]をクリックする。

   「ファイルの削除」の確認ウィンドウが開きますので、[はい]をクリックして削除してください。

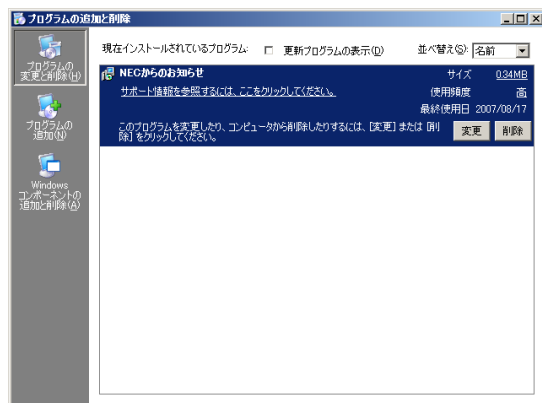
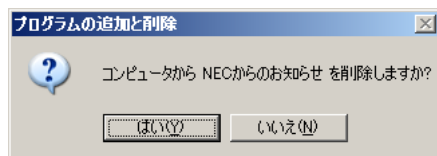
以上で、情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアンインストールは完了です。

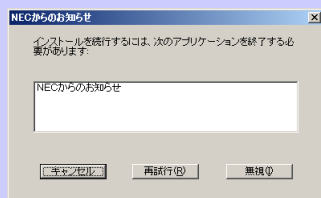
＜Windows Server 2003の場合＞

1. [プログラムの追加と削除]画面を表示する。

   <標準のスタートメニューの手順>
   スタートメニューから[コントロールパネル]をポイントし、[プログラムの追加と削除]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>
   スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]をクリックする。

2. [現在インストールされているプログラム]一覧から情報提供ツール[NECからのお知らせ]を選択し、[削除]をクリックする。

3. 次のメッセージが表示されたら、[はい] をクリックする。

   アンインストールが開始されます。

次のメッセージが表示される場合がありますが、［無視］をクリックしてください。

4. ［プログラムの追加と削除］画面の［現在インストールされているプログラム］一覧から、情報提供ツール「NECからのお知らせ」が削除されていることを確認後、システムを再起動する。

   続いて、［お気に入り］から［NECからのお知らせ］を削除します。

5. ［エクスプローラ］上にてツールメニューの[お気に入り]から[お気に入りの整理]をクリックする。

   「お気に入りの整理」ウィンドウが開きます。

6. 項目から「NEC」フォルダを選択する。

   NECフォルダに登録されているWebサイト一覧が表示されます。

7. [NECからのお知らせ]を選択して、[削除]をクリックする。

   「ファイルの削除の確認」ウィンドウが開きますので、[はい]をクリックして削除してください。

以上で、情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアンインストールは完了です。

管理PC用バンドルソフトウェア

装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

管理用PC上でESMPRO/ServerManager を使用すると、リモートで本装置を管理・監視、モジュール管理、RAIDシステムの管理・監視を行えます。
この機能を使用するためには､各種本体用バンドルソフトウェアを本装置にインストールする必要があります。
管理用PC へのESMPRO/ServerManagerのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。

ESMPRO/ServerManager の使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」DVD 内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」を参照してください。